

日本医史学会会報

48号(復刊)

平成24年10月30日

第114回日本医史学会総会開催にあたって	会-1
第113回日本医史学会総会印象記	会-2
第113回日本医史学会総会・学術大会 大会印象記(その2)	会-4
第113回日本医史学会総会	会-5
平成23年度関連医史学団体報告	会-12
雑報(寄贈本リスト)	会-20

第114回日本医史学会総会開催に当たって

総会会長 西巻 明彦

今回、第114回日本医史学会総会・学術大会の大会長を担当させて頂くことになりました。また合同で第41回日本歯科医史学会総会・学術大会を開催致します。開催に際し、御理解、御支援を頂きました中原泉日本歯科大学理事長、後押し頂いた小曾戸洋常任理事、合同総会開催に際し御援助頂いた酒井シヅ理事長、渋谷鉦日本歯科医史学会理事長に対し、心より厚く御礼申し上げます。

日本医史学会総会と日本歯科医史学会総会の合同総会開催の始まりは遠く昭和44年にまでさかのぼり、第70回日本医史学会総会は鈴木勝会長のもと、第11回日本蘭学資料研究大会、第2回歯学史集団会が合同で開催されたのが始まります。これは今田見信先生の強い要望により決定したと言われています。当日はおりしも会場のあった日本大学歯学部周辺が解放区として全学連に占

拠され、会場に会員が入れず、準備委員長の谷津三雄先生が全学連側と交渉し、無事に会員が会場入り出来たという一幕もあったそうです。この時の事を小川鼎三先生は後に「学生運動の激しいときで、会場の近くで騒動がおきましたが、主宰者の御尽力で一糸も乱れず成功裡に終えることができました」との一文をのせています。(日本歯科医史学会会誌、第5巻3号、1977)。このように騒乱の火の中で誕生した合同総会は以後、第81回総会(1980)は再び鈴木勝会長のもとで初めて日本歯科医史学会、日本葉史学会の3合同学術大会として日本大学歯学部で開催されました。このような3学会合同はその後開催されていませんが、当時の小川鼎三先生はこのような3学合同は10年に1度開催したいとの意を表明されました。以後、日本歯科医史学会とほぼ10年ごとに第93回

総会(1992)が日大会館で谷津三雄会長のもとで開催され、第103回総会(2002)は中原泉会長により、日本歯科大学新潟歯学部(現新潟生命歯学部)で開催されています。なお、日本歯科大学新潟生命歯学部は第89回総会でも蒲原宏会長のもと会場として使用され、懇親会出席者には銘酒「越の寒梅」がお土産として振舞われたそうです。

今回、事務局は北里大学東洋医史学総合研究所医史学研究所に置き(実行委員長 天野陽介氏、準備委員長 大津幸恵氏)、会場は日本歯科大学生命歯学部九段ホール(飯田橋)で、2013年5月11日、12日に開催されます。文字通りの合同総会で、スタッフも北里大学東洋医学研究所医史学研究部の関係者、日本歯科大学生命歯学部の関係者でお世話させていただきます。また社員総会(旧理

事・評議員会)は2013年5月10日に順天堂大学で開催致しますので、役員の諸先生方におかれましてはお間違いのないよう宜しくお願い申し上げます。

会長講演は「19世紀初頭の日本における痘瘡対策」を、特別講演、市民講座は、花輪壽彦先生(北里大学東洋医学総合研究所所長)、磯野道史先生(静岡芸術文化大学)、酒井シヅ先生(日本医史学会理事長)、鈴木晃志郎先生(富山大学)を予定しております。

また最後になりますが、御協賛頂きます日本薬史学会、日本獣医史学会、日本看護歴史学会の関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

諸先生方の御参加をお待ち申し上げます。

第113回日本医史学会総会印象記

松山 知明

まつやま歯科医院

第113回日本医史学会総会が平成24年6月15、16日の両日栃木県宇都宮市の獨協医科大学で寺野彰独協学園理事長を大会会長として開催された。

獨協医科大学の広い敷地内に入るやヘリポートに鎮座するドクターヘリに驚くとともにこの病院の実力と地域における存在感を見ることができた。

私からは第1会場の一般口演からいくつか強く印象に残ったものを述べさせていただきます。

今回の医史学会ではいつもながら魅力的な発表が多々あった。中でも安西なつめ氏の「17世紀における筋運動の原理の探求——ニコラウス・ステノによる筋の幾何学的記述」は私にとって大変興味深くまた触発させられるものだった。

2つほど理由があるが1つはステノが私の専門である歯科医史に馴染み深い人だったこと。虫歯予防に重要な耳下腺の導管であるステノ管のステノとは彼の名前だった。また地質学者でもあったステノは、当時地層から発見される舌石と言われ

ていた鉱物が、実は鯊の歯であることを発見したのだった。

理由のもう1つは筋運動という医学的な研究にデカルトという著名な哲学者が影響を与えていたという事実。

早速デカルトの方法序説を読んだところデカルト自身が相当に解剖をやって研究をしていたという注があり驚いた。

さらに調べるとステノ(1638~86)はデカルト(1596~1650)よりもスピノザ(1632~77)に近く、実際に交流があったことがわかった。

哲学史を見ると大陸合理主義といって無茶苦茶に大きく括られてデカルトとスピノザが紹介されているがデカルトはともかくスピノザは難解であった。ところが今回、この2人の間にステノを媒介させるとスピノザが大変身近に思えるようになった。感謝します。

当時は自然科学が勃興しだしていたがガリレイ

の宗教裁判のごとくまだまだキリスト教世界観の力は大きかったのだろう。

だからデカルトには、神を「我が思う」対象にするという発想がそもそも無かった。それに対してスピノザは「自然」を読むべきテキストとして措定し、さらに「聖書」も「自然」と同様に検証することができる対象として位置づけた。このことは信仰の側からすると冒瀆に当たる。このスピノザの考えはステノの地質学をはじめとする当時の自然科学の影響が当然あったであろう。

この後に坂井建雄氏による「ブールハーフェ(1668～1738)の箴言における疾患概念について」が口演された。ブールハーフェはステノとは30年ほどの時代の差があるが自然科学、キリスト教、医学の関係はどうなっていたのだろうか。大変興味深いところです。

柳澤波香氏の「ミドルセクス病院・医学校の軌跡」では250年もの間、医学と医学教育を進展させたこの病院と学校が、昨今の政策によって2005年に廃院、統合されたという進行中の歴史の開示であり、興味深くも残念に感じられた。

遠藤花子氏の「シェイクスピア時代の薬剤師と『ロミオとジュリエット』」ではロミオに毒薬を売った薬剤師とともに、ジュリエットに2日間仮死状態になる睡眠薬を調合していたのは神父であったと指摘があった。当時の教会関係者が医学的知識をもっていて教会の庭では薬草が栽培されていたということだが、意外であると同時に民衆に対する教会の深い関係を再認識した。

鈴木重統氏の「緒方洪庵と適塾に宿るフーフェラントの精神」では、フーフェラント(1762～1836)は開業医から大学の教授になったということであり、そのいきさつにゲーテが絡んでいたとうことであった。先のステノと哲学者との関係と同じで、時代は異なるが西ヨーロッパの学問の伝統を感じる発表であった。フーフェラントの生きた年代はフランス革命や産業革命があり、まさに近代への橋渡しの時代であった。であるので同時代の

医史学と哲学史を平行してながめるのも楽しそうだと思う。

二日目の口演では田中誠二氏の「戦後占領期における天然痘の流行と対策」では天然痘の流行に対してGHQの指示を受けて政策を実行する厚生省の奔走が大変興味深かった。

明治期の地方における衛生対策事業の研究として「信濃衛生会発行による月刊『信濃衛生』について」が湯本敦子氏の口演であった。

また、岡一雄氏による明治期の農民が書き残した絵日記「渡辺清絵日記」についての考察は当時の庶民の生活や農村の医療や衛生事情がよくわかり大変貴重な報告であった。

また明治期の病院関係の報告として高村凌雲の同愛社については小林晶氏からあった。JR 鶯谷駅の陸橋「凌雲橋」は同愛社に由来するそうである。またオテルデューの精神をこの地で実現させた高村凌雲と医師たちの奮闘の報告でもあった。

病院関係の発表はいくつかあったが金川英雄氏の「釜山斉生医院」は日本が最初に作った海外の病院としての紹介から始まった。もともと朝鮮に近い対馬藩が草梁和館という施設を運営していてその中にあった医療部分を明治になって日本政府が管理するようになったところだそうだ。この地に病院を設立した理由は、朝鮮との貿易において栄える釜山は日本への玄関であることで、日本人の治療と防疫のためであった。明治時代の海外の官立病院へはしばしば軍医が派遣されていたという事である。今日のこの地域のことを考えるに須く隔世の感と言うべしである。

今大会最終日の第1会場の最後に「九州大学耳鼻咽喉科学初代教授 久保猪之吉の業績」との演題で発表がなされたが発表者は九州大学医学部3年生の末松孝文君が務めた。明瞭な語り口もさることながら医史学の意義として知識とともに人間性の高揚を掲げていたのが頼もしく思えた。倫理学の一環として研究とともに教育をされているという事で九大の懐の深さを伺える発表であった。

第113回日本医史学会総会・学術大会 大会印象記(その2)

西巻 明彦

北里大学東洋医学総合研究所／日本歯科大学 医の博物館

ここでは会長講演、特別講演、ランチョンセミナー、市民公開講座、第2会場についての印象を述べさせていただきます。

獨協医科大学において平成24年度6月16日、17日の両日、第113回日本医史学会総会が行われました。会長講演、特別講演Ⅰは獨協大学の歴史で、寺野彰会長の『獨協医科大学の「温故知新」』、新宮譲治氏の「獨逸学協会学校の転換—法律学校から医学予備門へ」は、自由権運動の対抗として保守派により創立された由来から、日本の医学教育にいかにか大きく関連していたか印象深い講演でありました。続いて小出五郎氏の『「転機」を超え』、今に生きる医史』は、ジャーナリストの立場から足尾、水俣、フクシマを取り上げ、その問題の共通性を捉え、医史学がいかにか社会貢献できるかを問いかけた貴重で有意義な講演であり、またランチョンセミナーは加藤光寶氏による「看護のあゆみ—トレインドナース大関和一」で、壬生町における最初期の女性看護人と大関和の事績に関する力のこもる報告でありました。

翌17日午後には市民公開シンポジウム「とちぎ・メディカルヒストリー」が開催され、壬生町立羽生田小学校のプラスバンドによる「JIN一仁」の演奏と、TBSプロデューサー石丸彰彦氏と酒井シヅ理事長によるテレビドラマ「JIN一仁」についての対談が行なわれ、市民に対する医史学の啓蒙についてひとつのモデルを提供しました。市民公開講座は石崎道治氏の「石崎家の医療史」、中野正人氏の『「報徳全書」にみる齋藤玄昌について—二宮尊行の二児に早期種痘—』、岡一雄氏の「感染症と闘った医師たち—塩野地区の例から」日野原正の「栃木(縣)医学校の推移」、加藤光寶氏の「女性看護師の初穂—壬生養生局からトレインドナース大関和一」、牟田紀一氏の「栃木県

歯科事情—栃木県歯科医師会創立まで—」が行なわれ、最後はほぼ満員の会場から万来の拍手がわきあがりました。壬生町は関東諸藩の中では最初の解剖が行なわれ、さらに我が国における女性看護人発祥の地とのことで、医療と市民を結ぶ絆や、市民の地域に対する愛着と誇りを形成することに成功したと考えます。

第2会場においても力作揃いの口演が行なわれましたが、紙面の関係で2題を紹介します。真柳誠氏の「紹興本『素問』と王継先」は、王継先が紹興25年『靈樞』に『素問』を合編して、国字鑑から合刻したものの、後に断罪されたため王継先の序文が削除され、当時の諸事情がわかりづらくなったという論考はきわめて注目されるべき発表でした。また小曾戸洋氏らによる「幻の宋版『孫真人玉函方』—金沢文庫旧蔵本」は、現代中国でも失われている南宋版『孫真人玉函方』が館山で発見され、金沢文庫の蔵書印の存在から、金沢文庫での所蔵も確認された発表は、今大会の白眉でありました。後日談ですが、共同通信や下野新聞でも報道が行なわれたそうです。

懇親会は宇都宮グランドホテルにて開催され、来賓には栃木県知事、壬生町町長など著名な方々がおいでになり、ジャズ演奏の他、宇都宮名物のギョウザ、カクテルが振舞われ、時が経つのも忘れるほどでした。

今大会は口演85題、誌上发表7題という大変盛況な学会で、寺野彰会長、稲葉憲之実行委員長、日野原正先生、さまざまな立場で御活躍された実行委員の皆様方、大変な御努力に頭の下がる思いと謝意を表します。来年の東京での大会は今回の大会を参考とし、大会の運営に努めたいと考えております。多くの会員の皆様方の東京大会への御出席をお待ち申し上げます。

第113回日本医史学会総会

去る平成24年6月15日(金)に社員総会が宇都宮東武ホテルグランデ松柏の間で、16日(土)には会員大会が獨協医科大学関湊記念ホールで開催されました。下記の報告が承認され、協議事項は可決されました。

I. 報告事項(平成24年3月31日現在)

1. 平成23年度庶務報告

(1) 会員の動静

- ・ 入会者 53名
- ・ 退会者 55名

死亡会員 5名 金山知新(平成23年7月23日逝去) 小島英明(平成23年4月16日逝去)
藤田恒夫(平成24年2月6日逝去) 松会 豊(平成24年1月28日逝去)
山谷隆二(平成23年10月22日逝去)

都合退会 50名

- ・ 現在会員数 826名 正会員 762名(内 海外会員41名)
名誉会員 5名
功労会員 25名
賛助会員 3名
学生会員 31名

(2) 受賞

平成23年4月29日	瑞宝小綬章	榊原 宣
平成23年4月29日	瑞宝小綬章	山内裕雄
平成23年6月11日	第23回矢数医史学賞	郭 秀梅
平成23年6月11日	第17回日本医史学会学術奨励賞	勝井恵子
平成23年11月1日	日本医師会最高優功賞	井出 研
平成23年11月3日	瑞宝中綬章	友吉唯夫
平成23年12月	中国出版図書賞	郭 秀梅

2. 平成23年度事業報告

(1) 日本医史学雑誌 第57巻第2・3・4号, 第58巻第1号 発行

(2) 第112回日本医史学会総会 会長 坂井建雄

平成23年6月11日(土)～12日(日) 於・順天堂大学本郷キャンパス(文京区)

(3) 日本医史学会例会 8回開催

9月は神奈川地方会と合同開催,

12月は日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医史学会・日本看護歴史学会と5学会合同開催

3. 平成23年度共催・協賛事業報告

- (1) 高林謙三・桑田衡平兄弟誕生の地の石碑【協賛】 除幕式：平成23年10月23日(日)
- (2) 尾台榕堂没後140年記念事業「尾台榕堂の碑」【協賛】 落成式：平成23年10月29日(土)
- (3) 神農祭【協賛】 於・湯島聖堂 平成23年11月23日(水)
- (4) 有床診療所の日 記念行事・解説看板【協賛】
於・小石川養生所跡地 平成23年12月4日(日)
H23年11月18日実施の理事会にて承認されて、小石川植物園内「小石川養生所」解説看板を以下のように書き換えた。
(表) 小石川養生所開所の日 享保7年12月4日
(裏) 「日本医史学会」
「日本有床診療所連絡協議会」
- (5) 杉山和一生誕400年記念事業【協賛(継続)】
- (6) 吉益東洞顕彰会【後援】 於・広島大学 平成23年9月11日(日)
- (7) 第19回医療文化史サロン展【後援】 於・護国会館 平成23年11月1日(火)～3日(木)
- (8) 日本薬史学会2011年会【後援】 於・金城学院大学 平成23年11月12日(土)～13日(日)

4. 第24回矢数医史学賞選考委員会報告

青柳精一「近代医療のあけぼの：幕末・明治の医事制度」(思文閣出版)

5. 第18回日本医史学会学術奨励賞選考委員会報告

ヴィグル・マティアス, 町 泉寿郎

「19世紀ヨーロッパの鍼灸の受容におけるシーボルトと石坂宗哲の貢献について
—シーボルト旧蔵の鍼灸関係資料の比較調査を中心に—」

(日本医史学士学雑誌第57巻第3号掲載)

6. 関連医史学団体報告(資料A)

7. その他

II. 協議事項

第1号議案 平成23年度決算報告に関する件(資料1-3)

第2号議案 平成24年度事業計画案に関する件

- (1) 第113回日本医史学会総会 会長 寺野 彰
平成24年6月16日(土)～17日(日) 於・獨協医科大学(下都賀郡壬生町)
第114回日本医史学会総会・第41回日本歯科医史学会総会合同 会長 西巻明彦
平成25年5月11日(土)～12日(日) 於・日本歯科大学生命歯学部九段ホール
- (2) 日本医史学会12月例会・懇親会【共催】 於・順天堂大学 平成24年12月8日(土)
日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医史学会・日本看護歴史学会と5学会合同開催
- (3) 神農祭【協賛】 於・湯島聖堂 平成24年11月23日(金)
- (4) 杉山検校生誕400年記念事業【協賛(継続)】

(5) 吉益東洞顕彰会【後援】 於・広島大学 平成24年9月16日(日)

(6) 第20回医療文化史サロン展【後援】 於・護王会館 平成24年11月1日(木)~3日(日)

第3号議案 平成24年度予算案に関する件(資料4)

第4号議案 第115回以降日本医史学会総会会長選出に関する件

(1) 第115回日本医史学会総会

候補:福岡

(2) 第116回日本医史学会総会

第29回医学会総会が近畿地方で開催される

候補:会長 小曾戸 洋 於・武田振興財団

第5号議案 役員選定に関する件

(1) 代議員

前回の理事会において推薦することが決定した方の内、以下の方から就任の承諾を頂いた。

総会で承認を得て就任頂く。

任期は平成24年4月1日~平成26年3月31日(2年)、但し平成24年に満80歳に達する方(*)は、平成25年3月31日まで。

相川忠臣, 青木歳幸, 赤祖父一知, 岩崎鐵志, 遠藤次郎, 小形利彦, 片桐一男,

佐藤 裕, 澤井 直, 渋谷 鉦, 島田保久*, 鈴木晃仁, 園田真也, 瀧澤利行,

寺澤捷年, 友吉唯夫*, 花輪壽彦, 樋口誠太郎, 昼田源四郎, 藤倉一郎*,

町泉寿郎, 柳澤波香, 山内一信, 山田和夫

以下の方は辞退された。

片岡勝子(体調により)

(2) 功労会員

前回の理事会において推薦することが決定した方の内、以下の方から就任の承諾を頂いた。

杉田暉道, 戸出一郎, 中橋彌光, 深瀬泰旦, 正橋剛二, 会田 恵, 青木國雄, 青木允夫,

荒井保男, 大島智夫, 小田皓二, 加藤四郎, 唐沢信安, 北小路博央, 小林 晶,

白崎昭一郎, 高橋 昭, 立川昭二, 中山 沃, 原敬二郎, 原田康夫, 松尾信一,

室賀昭三, 山田光胤, 山之内外一

以下の方は辞退された。

岡田靖雄

以下の方は退会された。

多留淳文

(3) 名誉会員

以下の2名を名誉会員に推薦する。

杉田暉道氏, 深瀬泰旦氏

Ⅲ. その他

資料1

収支決算書

自 平成23年4月 1日
至 平成23年5月31日

科目	収入	支出	備考
会費収入	1,617,900		
入会金収入	6,000		
例会収入	6,000		
購読会費	170,000		
掲載料	25,500		
著者負担	0		
助成金	0		
寄付金			
利息	0		
雑収入	0		
学会誌刊行費		812,423	
事業費		188,582	
人件費		453,100	
旅費交通費		423,760	
通信費		22,330	
運送費		7,060	
交際費		15,000	
会議費		44,860	
事務用品費		26,845	
支払手数料		200,000	
寄付金		4,611,119	※特別会計を含まない
雑費		91,220	
小計	1,825,400	6,896,299	
前年度繰越金	5,070,899		
合計	6,896,299	6,896,299	

資料2

貸借対照表
平成24年3月31日現在

科 目	金 額	備 考
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金	166,048	
預金	3,191,412	
流動資産 合計	3,357,460	
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
基本財産 合計	0	
(2) 特定資産		
特定預金	10,202,031	
矢数医史学賞基金	5,019,756	
斉藤脩基金(学術奨励賞基金)	1,565,411	
特定資産 合計	16,787,198	
(3) その他固定資産		
その他固定資産 合計	0	
固定資産 合計	16,787,198	
資産 合計	20,144,658	
II 負債の部		
1. 流動負債		
預り金	9,603	
流動負債 合計	9,603	
2. 固定負債		
固定負債 合計	0	
負債 合計	9,603	
III 正味財産の部		
1. 一般正味財産	20,135,055	
正味財産 合計	20,135,055	

資料3

正味財産増減計算書

自平成23年6月1日
至平成24年3月31日

科目	金額	備考
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 会費収入	4,822,000	
② 助成金	1,000,000	
③ 寄付金	21,796,312	※1
④ 雑誌購読料等	303,596	
経常収益計	27,921,908	
(2) 経常費用		
① 学会誌刊行費	3,199,445	
② 事業費	1,366,837	
③ 人件費	2,263,850	
④ 会議費等	57,732	
⑤ 旅費交通費	467,300	
⑥ 通信・運送費	140,875	
⑦ 事務費	67,324	
⑧ 支払手数料	150,000	
⑨ 雑費	75,725	
経常費用計	7,789,088	
当期経常増減額 = (1) - (2)	20,132,820	
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
① 受取利息	2,235	
経常外収益計	2,235	
(2) 経常外費用		
経常外費用計	0	
当期経常外増減額 = (1) - (2)	2,235	
当期一般正味財産増減額 = 1 + 2	20,135,055	
一般正味財産 期首残高	0	
一般正味財産 期末残高	20,135,055	
II 正味財産期末残高	20,135,055	

※1 任意団体の特別会計 17,185,193円を含む

定款第31条に従い、平成23年度の資産及び会計について監査した結果、決算報告書は正確かつ妥当であることを認め、理事の職務執行に不整の点はないと認めます。

平成24年5月10日

監事

石原



監事

高橋



資料4

平成24年度予算(案)

科目	決算	予算	備考
	自平成23年6月1日 至平成24年3月31日		
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 会費収入	4,822,000	7,500,000	※1
② 助成金	1,000,000	0	
③ 寄付金	21,796,312	500,000	
④ 雑誌購読料等	303,596	300,000	
経常収益計	27,921,908	8,300,000	
(2) 経常費用			
① 学会誌刊行費	3,199,445	3,500,000	
② 事業費	1,366,837	1,600,000	
③ 人件費	2,263,850	2,860,000	
④ 会議費等	57,732	100,000	
⑤ 旅費交通費	467,300	500,000	
⑥ 通信・運送費	140,875	200,000	
⑦ 事務費	67,324	80,000	
⑧ 支払手数料	150,000	150,000	
⑨ 雑費	75,725	80,000	
経常費用計	7,789,088	9,070,000	
当期経常増減額 = (1) - (2)	20,132,820	-770,000	
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
① 受取利息	2,235	2,000	
経常外収益計	2,235	2,000	
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	
当期経常外増減額 = (1) - (2)	2,235	2,000	
当期一般正味財産増減額 = 1 + 2	20,135,055	-768,000	
一般正味財産 期首残高	0	20,135,055	
一般正味財産 期末残高	20,135,055	19,367,055	
II 正味財産期末残高	20,135,055	19,367,055	

※1 会費収入の決算金額は、任意団体の決算分 1,617,900円は含まれていない。含めると 6,439,900円となる。

(資料A)

平成23年度 関連医史学団体報告

北海道医史学研究会 事業報告

北海道医史学研究会幹事会

平成23年4月20日・北海道医師会館

議題及び承認事項

1. 合同学術集会について

日本薬史学会北海道支部が当番幹事、10月29日午後3時から開催

機関誌『北辰 第11号』発行(平成23年8月1日)

平成23年度北海道医史学研究会 総会

平成23年10月29日 AKK ビル

第6回医史・薬史合同学術集会

平成23年10月29日 AKK ビル

〈プログラム〉

開会挨拶(15:00~15:08)

日本薬史学会北海道支部長 斎藤元護

北海道医史学研究会会長 長瀬 清

特別講演(15:10~16:10) 座長 西部三省(日本薬史学会)

「印籠と薬 江戸時代の薬と包装」

講師 服部 昭(小西製薬株式会社)

一般演題Ⅰ(16:20~16:50) 座長 富所謙吉(日本薬史学会)

1. 後志の薬史 IV. 薬業家たちの屋印

○吉沢逸雄・石川直章・三浦孝之・島森美光

2. 後志の薬史 V. バリウムを巡る鉱業と製薬業の企業合併

○小松健一・吉沢逸雄・高田昌彦

3. 『賣薬製剤備考』(明治28年)に記述された売薬の製剤方法

○本間克明

一般演題Ⅱ(16:50~17:10) 座長 寺沢 浩一(北海道大学・医)

1. 関場不二彦著『西医学東漸史話』について(第9報)箕作阮甫著「外科必読」のこと

○秦 温信・松岡伸一・佐々木文章・佐野文男・島田保久・鮫島夏樹

2. 北海道の石綿肺研究と富良野保健所長左部勝

○古屋 統

閉会挨拶(17:10~)

北海道医史学研究会 代表幹事 島田保久

以上

島田保久(北海道医史学研究会代表幹事)

新潟支部 報告

今年度は支部としての例会，研究発表は行われなかった。支部事務局の所在は従来どおり，日本歯科大学新潟生命歯学部医の博物館である。

平成23年度(2011年)中の支部会員の学会発表などは次の通りである。

1) 学会・研究会などでの発表

- ①第112回日本医史学会総会発表(6月11～12日 東京都文京区・順天堂大学)
- | | |
|----------------------------------|------------|
| 『高く尊き看護婦の使命』(昭和8年刊)にみる医師二木謙三の看護観 | 平尾真智子 |
| 香月牛山『老人必用養草』(1716)にみる老人の保養観 | 中村節子・平尾真智子 |
| 萬病萬毒論と萬病一毒論 | 西巻明彦 |
| GHQ/SCAP文書にみる戦後日本の歯科医学教育改革 | 樋口輝雄 |
- ②第39回日本歯科医史学会総会発表(9月10日 東京都文京区・ガーデンパレス)
- | | |
|------------------------------|------|
| 『雨月物語』にみる秋成の口腔観(その2) | 西巻明彦 |
| 『温疫論』と口腔の関連性の考察 | 西巻明彦 |
| 白洲正子にみる古面の口腔観 | 西巻明彦 |
| ロベルト・コッホと富士塚信仰(その3) | 西巻明彦 |
| シンポジウム「わが国における近代歯科医学のルーツを辿る」 | |
| 『口腔医学は、なぜ近代歯科医学となりえなかったか』 | 西巻明彦 |
| 代議士坂本一角，DDS | 樋口輝雄 |
| 京城歯科医学専門学校と学則について | 樋口輝雄 |
- ③日本医史学会月例会(東京文京区・順天堂大学)
- | | |
|---|-------|
| 3月例会：元海軍軍医・野上八十八の「経歯的結核感染の研究」
一加賀乙彦の自伝的小説『永遠の都』をテキストに— | 樋口輝雄 |
| 4月例会：日本における舌診思想の一考察(その2) | 西巻明彦 |
| 5月例会：光明皇后の施薬院・悲田院と施浴伝説—看護史の視点からの考察 | 平尾真智子 |
| 10月例会：東京・青山霊園ハルツホルン(Henry Hartshorne:華爾都保崙, 乞治呵倫)の墓 | 樋口輝雄 |
| 12月例会：「口歯類要」における口歯の意味的考察 | 西巻明彦 |
- ④仏教看護・ビハーラ学会第7回年次大会
- | | |
|----------------------|-------|
| 光明皇后の施浴伝説形成と洗浴に関する仏典 | 平尾真智子 |
|----------------------|-------|
- ⑤日本医史学会関西支部2011年秋季学術集会(11月13日 大阪市阿倍野区・大阪市立大学)
- | | |
|--------------|-------|
| 病草子にみられる口腔疾患 | 西巻明彦 |
| 洗浴に関する仏典と看護 | 平尾真智子 |
- ⑥長岡市与板町歴史愛好会(5月28日 長岡市・明元寺研修室)
- | | |
|-----------------|-------|
| 井伊氏与板藩の医療体制について | 長谷川一夫 |
|-----------------|-------|
- ⑦(6月24日 新潟市・白山会館)
- | | |
|---------|------|
| 神と医について | 蒲原 宏 |
|---------|------|
- ⑧(7月16日 新潟市・中央幼稚園)
- | | |
|------------|------|
| 仏と医と人間について | 蒲原 宏 |
|------------|------|
- ⑨(9月24日 新潟市・新潟大学医学部有壬会館)
- | | |
|------------------------|------|
| 文人としての中田瑞穂新潟大学脳神経外科学教授 | 蒲原 宏 |
|------------------------|------|

- ⑩(10月22日 上越市・上越市川室記念病院)
ヘボンの弟子川室道一の学系と同時代の周辺医療事情 蒲原 宏
- ⑪(11月13日 新潟市・新潟県学習センター)
新潟県石仏フォーラム『田の神石像と医療』 蒲原 宏
- ⑫(12月2日 新潟市・勝念寺)
新潟市の寺町を見る切り口ー洋学史と医学史から見た寺町史跡 蒲原 宏

2) 著作ならびに論文等

- 新潟うき世話ー医者を目坊主の目, 2011年6月, 新潟雪書房 蒲原 宏
- 新潟怪老奇談, 2011年9月, 新潟雪書房 蒲原 宏
- 越佐医学・文人の記憶, 新潟文化, 23 蒲原 宏
- 書評: 星亮一著『平太の戊辰戦争ー少年兵が見た会津藩の落日ー』(ベスト新書)
ー内戦に於ける医療と人肉嗜食(Cannibalism)も記載ー, 新潟市医師会報2月号 蒲原 宏
- 書評: Mary Dobson 原著: 小林力訳『Diseaseー人類を襲った30の病魔ー』(医学書院)
ーイギリス女性医史学者によるユニークな疾病史, 新潟市医師会報5月号 蒲原 宏
- 書評: 坂下勲著『波のまにまに夢ー米国医学卒前・卒後教育への誘い』(考古堂)
整形外科の歴史(163)~(174) 蒲原 宏
- 20世紀初期から中期へアメリカ整形外科の近代化(13)~(24) 蒲原 宏

“整形外科の歴史”は『整形外科看護』16巻1号~12号(2011年1~12月)に連載

〒951-8580 新潟市中央区浜浦町1-8 日本歯科大学新潟生命歯学部 医の博物館内
電話 025-267-1500 FAX 025-267-1134
日本医史学会新潟支部(樋口輝雄)

北陸医史学会 総会・例会報告

第33回総会・例会を以下の通り開催した。

日時・平成23年7月10日(日)

会場・高岡市ウイング・ウイング高岡生涯学習センター

午前10時定刻開会~午後3時閉会

1. 会長挨拶

2. 研究発表(午前の部)

①内藤記念博物館に見る北陸の医薬 伊藤恭子

②黒川良安宅の変遷 赤祖父一知

③スロイス方聚医薬品の処方集 板垣英治

3. 昼食・総会(別記)

4. 研究発表(午後の部)

④昭和20年代の皮膚科と泌尿器科の分離のいきさつ 津川龍三

⑤幻灯による映像教育 寺畑喜朔

⑥高岡長崎家の蔵書印について 正橋剛二

⑦キンストレーキの故郷と流布の旅
(誌上発表)

篠原治道・山本 博

事務所の移転

正橋剛二前会長宅より

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大字 1-1

金沢医科大学第二解剖学教室(主任篠原治道教授)へ

電話 076-218-8114

日本医史学会神奈川地方会

第38回神奈川地方会秋季例会と日本医史学会9月学術例会の合同例会

日時:平成23年9月10日(木) 午後1時~午後5時

場所:鶴見大学歯学部3号館2階3-1

総会

本年度の総会において滝上正会長の任期が終了し、荒井保男新会長が承認された。

1. 滝上正会長へ花束の贈呈
2. 平成23年度会計報告
3. 春季例会の中止について

一般講演

- | | |
|-------------------------|-----------|
| 1. 心臓カテーテル法の発見 | 佐分利保雄 |
| 2. 森鷗外と横浜市歌 | 荒井保男 |
| 3. 釈迦時代における出家僧の健康管理について | 杉田暉道 |
| 4. 関寛斎の医の倫理観 | 関根透, 島田道子 |

日本医史学会神奈川地方会事務局

鶴見大学歯学部・人文研究室内

(文責:鶴見大学歯学部 関根 透)

東海支部 報告

下記講演会の後援活動を行った。

『伊藤圭介日記』(第17集)出版記念会 一洋学史学会11月例会共催

平成23年11月20日(日) 午後1時~4時15分

(於 名古屋市東山植物園植物会館研修室)

【記念講演】

「花暦 全」(名古屋市東山植物園蔵)と新発見の「花暦草稿」(小石川植物園蔵)について

坂崎信之氏

「圭介腊葉帖」から切り取られた標本(2)

加藤僖重氏

『植学啓原』にある西洋植物学はどこから来たか I

遠藤正治氏

『砲術語選』と伊藤圭介

杉村啓治氏

伊藤圭介の「木庵伽羅笠記」と伊藤圭介先生遺蹟顕彰会 I

幸田正孝氏

(山内一信・高橋 昭)

関西支部 活動報告

▽日本医史学会関西支部 2011 年秋季大会 (23 年度春季は開催なし)

平成 23 年 11 月 13 日 (日) 大阪市立大学医学部学舎 共催: 京都医学史研究会

〈一般演題〉

- | | |
|-----------------------------------|---------------------|
| ① ベルツ博士の日光訪問と栄養学論議 | 山上勝久 (大阪市立大学) |
| ② 北京大学蔵漢代医簡初探 | 猪飼祥夫 (天津市) |
| ③ 大坂の除痘館における出張種痘 | 古西義麿 (堺市) |
| ④ The Lancet の創始者トマス・ウェイクリーについて | 柳沢波香 (東京都) |
| ⑤ 香川修庵と医事捷徑・一本堂雑話 | 杉浦守邦 (天津市) |
| ⑥ 病草紙にみられる口腔疾患 | 西巻明彦 (東京都) |
| ⑦ 英国医史考, 侍医國手 | 栗本宗治 (西宮市) |
| ⑧ 橋本和夫先生の思い出 | 飯塚修三 (西宮市) |
| ⑨ 冬虫夏草の文化誌をめぐって | 奥澤康正 (京都市) |
| ⑩ マンスフェルトの訳官, 佐藤方朔の資料の検討 | 相川忠臣 (活水女子大学) |
| ⑪ 在村医の成立一備前国邑久郡 中島家について | 中島洋一 (岡山市) |
| ⑫ 近代美容理論の展開と藤波芙蓉 | 鈴木則子 (奈良女子大学) |
| ⑬ 洗浴に関する仏典と看護 | 平尾真智子 (長岡市) |
| ⑭ 下田歌子の女子教育に見る看護学の位置づけ | 上坂良子 (秦野市) |
| ⑮ 涙道閉塞症に対する治療器具 (ブジー) 先端角度の変遷について | 園田真也 (枕崎市) |
| ⑯ 西玄甫 (1636~84) の外科免許状について | ミヒェル・ヴォルフガング (九州大学) |
| ⑰ イギリス帰国後のベンジャミン・ホブソン (合信) | 八耳俊文 (東京都) |

〈特別講演〉

- ① 適塾と除痘館 一緒方洪庵の種痘普及活動をめぐって—
堺女子短期大学名誉教授 浅井允晶

〈紙上発表〉

- ① 資料 “CHILD WELFARE WORK IN JAPAN by HIRAKU SANDAYA” 小野尚香 (豊中市)
② いわゆる『儒醫』についての考察—初探 田中祐尾 (大阪市立大学)

以上全口演の抄録は機関誌『醫譚』95号に収載します。(平成24年6月発行予定)

▽支部機関誌『醫譚』93号 平成23年6月30日発行

支部機関誌『醫譚』94号 平成23年12月20日発行

上述機関誌の収載目次は関西支部メールアドレス(下記)をお開き下さい。

〒581-0003 大阪府八尾市本町 5-1-7 田中医院内

日本医史学会関西支部事務局(田中祐尾)

☎ 072-922-2028 FAX 072-993-1237 HP <http://mhkansai.umin.ne.jp/>

京都医学史研究会 活動報告

▽機関紙『啓迪』第29号発刊

- 香川修庵と「医事捷徑」・「一本堂雑話」(前) 杉浦守邦
 近江婦人慈善会蒲生支会の看病婦養成(五) 八木聖弥
 中国・韓国の古典籍から昆虫病原
 (白疆蚕・蟬花・シナ冬虫夏草)を探る 奥沢康正
 看護基礎教育における効果的な看護歴史教育の方法
 一眼科・外科医療歴史博物館の見学を通して 滝下幸栄・岩脇陽子
 松岡知子・室田昌子

▽第230回例会 平成23年10月13日 於・京都府医師会館

(京都府医師会と共催)

講演「京都療病院お雇い医師ジョイベ：補遺」 京都府立医科大学名誉教授 森本武利先生

▽第231回例会 平成23年11月13日 於・大阪市立大学 医学部学舎

(日本医史学会関西支部秋季大会と共催)

会員発表

- 「香川修庵と医事捷徑・一本堂雑話」 杉浦守邦
 「冬虫夏草の文化誌をめぐる」 奥沢康正

▽第232回例会 平成24年3月15日 於・京都府医師会館

(京都府医師会と共催)

講演「写本挿絵が語る医療と身体をめぐる中世ヨーロッパ」
お茶の水女子大学大学院教授 徳井淑子先生

▽第19回医療文化史サロン展「古典の日に医心方と源氏物語」

平成23年11月1日～11月3日 於・護国会館

主催 医療文化史サロン協賛会 後援 京都医学史研究会他

▽その他 平成23年3月4日

府医師会を代表して京都医学史研究会3人が「盟親」の山脇東洋観臓記念碑に献花(建碑から36周年)、ついで誓願寺墓地内山脇東洋夫妻の墓・山脇社中解剖供養碑に供花した。

〒604-8585 京都市中京区西ノ京梅尾町3-14 京都府医師会館内
京都医学史研究会 会長 中橋彌光

お詫びと訂正 平成22年度京都医学史研究会 活動報告 の

▽第228回例会 平成22年11月12日 於・京大会館 を

▽第228回例会 平成22年11月7日 於・京都市国際交流会館 に訂正

日本医史学会広島支部・岡山医学史研究会 合同学術集会

日時 平成24年1月28日(土) 13時～

場所 広島大学医学部基礎講義等 第一講義室

1. 日本医史学会広島支部総会

2. 日本医史学会広島支部・岡山医学史研究会合同発表会

座長 広島大学 秀 道広

① CowperによるBidloo解剖学図譜の剽窃

広島国際大学 隅田 寛・坂村八恵・岡本裕子・千田武志

② 作業療法の歴史—そのパラダイムシフト—

広島国際大学 川本健太郎

③ 歯痛地蔵は残っている

門前歯科医院 門前弘美

④ 大久野島毒ガスの戦後処理 — A連邦出領軍の活動を中心として—

広島国際大学 千田武志・岡本裕子・坂村八重・隅田 寛

コーヒーブレイク (10分間)

座長 広島国際大学 隅田 寛

⑤ 元岡山県知事・三木行広医師の公衆衛生

倉敷仁風ホスピタル 高木寛治

⑥ 満州開拓国と満州開拓医

中央診療所 泉 孝英

⑦ 京城帝国大学の学生と教授 — Prosopography的検討—

くつろぎ苑 石田純郎

コーヒーブレイク (10分間)

3. 特別講演会

座長 元広島国際大学 千田武志

① 広島における種痘の光と影—賀茂郡川尻村久蔵の悲劇

広島大学 中山富廣

座長 日本医史学会広島支部長 河野修興

② 広島の生んだ医傑・吉益東洞とその医論

千葉中央メディカルセンター 寺澤捷年

福岡地方会 活動報告

平成23年度福岡地方会は、下記の通り2度の研究発表会を開催いたしました。次年度も、本年度とほぼ同じ日程で開催の予定です。

第20回 福岡地方会

開催日時：平成23年8月20日(土) 14時30分から

会場：福岡ガーデンパレス(福岡市中央区天神4丁目8-15)

参加者数：16名(発表者を含む)

発表者(五十音順)・演題

ヴォルフガング・ミヒエル

西玄甫(1636-1684)の阿蘭陀外科修業証書について

小林 晶

本邦に正統の整形外科学を開花させた神中正一先生(前篇)

佐藤 裕

九大卒で唯一ノーベル医学生理賞候補になった井戸泰(1881-1919)

富田英壽

緒方春朔と天野甚左衛門

中山茂春

福沢諭吉の豊前中津藩と筑後久留米藩中山家に関する四方山の話

原 寛

日本における西洋医学の広がり

丸山マサ美

九州大学医学部における史料研究

新しい「医の倫理」教育方法論の構築 第一報

第21回 福岡地方会

開催日時：平成24年2月18日(土) 14時30分から

会場：福岡ガーデンパレス(福岡市中央区天神4丁目8-15)

参加者数：20名(発表者を含む)

発表者(五十音順)・演題

ヴォルフガング・ミヒエル

上方蘭学者の新資料について

小林 晶

本邦に正統の整形外科学を開花させた神中正一先生(後編)

佐藤 裕

パリ医学史散歩(医学史博物館とデュプイトラン博物館)

柴田浩一

九大耳鼻咽喉科初代教授 久保猪之吉先生 その一 生地・福島を訪ねて

原敬二郎

貝原益軒著「楽訓」を読む

原 寛

・解体新書89年前の解剖書はなぜ公にされなかったか?

・日本での西洋医学の始まりと広がり

松岡順之介

高木兼寛先生の生涯に学ぶ

丸山マサ美

九州大学医学部における史料研究(第2報)

昭和4(1929)年 『耳鼻咽喉科外来患者 一手術候補簿一』

雑報

寄贈本リスト

【単行本】

- 圭介文書研究会 編『伊藤圭介日記第十七集』「名古屋市東山植物園」2011
- 中村光夫『長野の疱瘡神』2009
- 中村光夫『茨城の疱瘡神／茨城の疱瘡神を訪ねて』2010
- 中村光夫『疱瘡赤絵集』2011
- 中村光夫『北の大地ドライブ日記 —桑田立斎のアイヌ種痘の跡をたどる—』2011
- 『久保記念館目録及び解説』「九州大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科分野」2011
- 新村 拓『国民皆保険の時代』「財団法人法政大学出版局」2011
- 香月牛山 原著 中村節子 翻刻・訳注『老人必用養草』「社団法人農村漁村文化協会」2011
- C.J.S. トンプソン『手術器械の歴史』「時空出版」2011
- 坂井建雄, 池田黎太郎, 澤井 直 訳『ガレノス解剖学論集』「京都大学学術出版会」2011
- 寺澤捷年『吉益東洞の研究 日本漢方創造の思想』「岩波書店」2012
- 藤倉一郎『瀉血の話』「近代文芸社」2011
- 公益社団法人日本国際医学協会『黎明期の日本近代医学・薬学 一日独交流 150周年記念出版一』「公益社団法人日本国際医学協会」2012
- 適塾記念会緒方洪庵全集編集委員会 編『緒方洪庵全集 第1巻. 第2巻』「大阪大学出版会」2010
- 坂井建雄 編『日本医学教育史』「東北大学出版会」2012
- 黒川正剛『魔女とメラニコリー』「新評論」2012
- 鈴木則子『江戸の流行り病』「吉川弘文館」2012
- 太田由佳『松岡恕庵本草学の研究』「思文閣出版」2012
- 田中智子『近代日本高等教育体制の黎明』「思文閣出版」2012
- 荒井裕樹『障害と文学』「現代書館」2011
- 荒井裕樹『隔離の文学』「書肆アルス」2011
- 中山 沃『緒方惟準伝 緒方家の人々とその周辺』「思文閣出版」2012
- 橋本 明『精神病者と私宅監置』「六花出版」2011
- 神谷昭典『植民地医育論』「新協出版社」2012
- 石田 眞『秋田医学史散歩』「秋田活版印刷株式会社」2012
- 末永恵子 編『新聞にみる福島の医療』「アカデミア・コンソーシアムふくしま」2012
- 森川 潤『萩藩好生堂教諭役青木周弼』「広島修道大学学術交流センター」2012
- 加藤美恵子『日本中世の母性と穢れ観』「塙書房」2012
- ミヒェル・ヴォルフガング, 吉田洋一, 大島明秀 共編『中津市歴史民俗資料館 分館 医家史料館叢書XI史料と人物IV』「中津市教育委員会」2012
- 深瀬泰旦『小児科学の史的変遷』「思文閣出版」2010
- 矢崎義雄 編『医の未来』「岩波書店」2011

【別刷】

- 『萩藩南苑医学校飜訳掛青木周弼』森川 潤「広島修大論集」52(2)
- 『新たに発見された『素女妙論』の寫本 —その翻字とその校合一』永塚憲治「中国学論集」29

『『医界之鉄椎』から一世紀たって』寺澤捷年「日本東洋医学雑誌」63(2)

『禅病の原因, 症状, 治療について —陰陽五行説からみた禅病の成り立ち—』鈴木英鷹, 森山健三「精神科治療学」27(8)

【雑 誌】

『あいみっく』32(4), 33(1-2) 国際医学情報センター

『BIBLIA』(136-137) 天理図書館

『Chinese Journal of Medical History』41(5-6), 42(1-2) Chinese Medical Association

『Capsule』(90) 日本製薬工業協会広報委員会

『Chinese Medical Journal』124(19-24), 125(1-9) Chinese Medical Association

『千葉県立中央博物館研究報告』12(2) 千葉県立中央博物館

『大韓韓医学原典学会誌』24(1-6) 大韓韓医学原典学会

『だより(練馬区医師会)』(524-534) 練馬区医師会

『福井県医師会だより』(606-616) 福井県医師会

『醫譚』(通刊111-112)(復刊94-95) 日本医史学会関西支部

『医道の日本』70(12), 71(1-10) 医道の日本社

『いわちどり(小笠医師会誌)』(39) 小笠医師会

『JMAJ』54(5-6), 55(1-3) Japan Medical Association

『Journal of Anesthesia』25(6), 26(1-3) Japan Society of Anesthesiologists

『除痘館記念資料室だより』(4) (財)洪庵記念会 除痘館記念資料室

『漢方の臨床』58(11-12), 59(1-9) 東亜医学協会

『漢方と鍼』36(1-2), 37(3) 北里研究所東洋医学総合研究所だより

『神奈川県医学会雑誌』38(2), 39(1) 神奈川県医師会

『研究紀要』(6) 佐賀大学地域学歴史文化研究センター

『明治薬科大学研究紀要』(41) 明治薬科大学

『練馬医学会誌』(18)

『日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌』29(1) 日本内分泌外科学会, 日本甲状腺外科学会

『日本医師会雑誌』140(9-12), 141(1-6), 特(1) 日本医師会

『日本獣医史学雑誌』(49) 日本獣医史学会

『日本歯科医史学会誌』29(3-4) 日本歯科医史学会

『鳴滝紀要』(22) シーボルト記念館

『労働科学』87(4-6), 88(1-2) 労働科学研究所

『労働の科学』66(12), 67(1-10) 労働科学研究所

『STETHOSCOPE』(204-206) 日本医学切手の会会報

『斯文』(121) 斯文会

『湘南史学』(21) 東海大学大学院日本史学友会

『洋学史研究』(29) 洋学史研究会

日本医学会だより

JAMS News

2012年10月 No. 48
日本医学会

第143回日本医学会シンポジウム

「がんの一次予防と二次予防」をテーマに、12月20日(木)13:00~17:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、津金昌一郎、祖父江友孝、浜島信之、斎藤博の各氏。参加申込みは郵便はがき、FAX、本会HP (<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加費無料。プログラムは日本医学会HPに掲載中。

医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を8月29日(水)に開催し、平成24年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞13、奨励賞40を審査した。

選考の結果、11月1日(木)の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は4名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・幹細胞システムにおける細胞分化機構の解明/仲野 徹 (阪大・病理学)
- ・魚食により摂取される環境汚染物質の健康影響とリスク評価に関する研究/佐藤 洋(内閣府食品安全委員会)
- ・日本人の虚血性心疾患に関する基礎的・臨床的研究/下川宏明 (東北大・循環器内科学)
- ・ABO血液型不適合腎移植への挑戦—免疫学的禁忌の克服と臨床応用の普及/高橋公太(新

潟大・腎泌尿器病態学)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・新規細胞接着分子システムが動脈硬化を制御する分子機構/扇田久和(滋賀医大・分子病態生化学)
- ・腸管上皮培養技術を応用した全腸管組織体外構築の試み/中村哲也(医歯大・消化管先端治療学)
- ・ミトコンドリアダイナミクスによるエネルギー代謝調節機構の解明からナノ治療へ/野村政壽 (九大・内分泌代謝・糖尿病内科学)
- ・膀胱癌の早期診断法の開発に関する研究/谷内田真一 (国立がん研究センター研究所)
- ・脳磁計による神経義手制御とALS患者への適応/柳澤琢史 (阪大・脳神経外科学)
- ・社会格差と健康—行動経済学のアプローチによるメカニズム解明/橋本英樹(東大・公衆衛生学)
- ・東日本大震災被災地における保健医療従事者に対するこころのケア及び自殺対策の教育システムの構築を目的とした地域介入研究/大塚耕太郎 (岩医大・神経精神科学)
- ・トランスレーショナルリサーチ実践による新しい急性心筋梗塞治療法の開発/南野哲男(阪大・循環器内科学)
- ・肝細胞癌の発症リスクに寄与するバイオマーカーの同定と有用性の検証/大石和佳(放射線影響研究所)
- ・日本人糖尿病患者の特徴と病態に関する臨床疫学的検討/曾根博仁 (新潟大・血液・内分

泌・代謝内科学)

- ・思春期注意欠如多動性障害へのペアレントトレーニングは愛着の神経基盤を変化させるか/石井礼花 (東大・精神神経科学)
- ・急性中耳炎の難治化の病態解明と粘膜ワクチンによる感染予防に関する研究/保富宗城(和医大・耳鼻咽喉科学)
- ・発癌性ウイルス特異的免疫誘導を介した子宮頸癌に対する予防的・治療的薬剤の開発/川名 敬 (東大・産婦人科学)
- ・過活動膀胱における KIT-SCF シグナル伝達系からみた病態解明と臨床応用/窪田泰江(名市大・腎・泌尿器科学)
- ・免疫・アレルギー疾患の発症における皮膚の役割の解明/椛島健治 (京大・皮膚科学)

□日本医学会あり方委員会

第11回委員会を平成24年5月29日(火)、第12回委員会を7月4日(水)、第13回委員会を9月13日(木)にそれぞれ開催した。「日本医学会が目指すもの」、「法人化について」等が主な議題であった。

金澤一郎委員長の下、池田康夫委員、岡井 崇委員、實成文彦委員、富野康日己委員、中村耕三委員の6名で構成されている。

□日本医学会法人化組織委員会

日本医学会の法人化準備に向けて、平成23年度に新設された委員会で、本年度より組織委員会に名称を変更した。委員は池田康夫、岡山博人、松木則夫、野田哲生、福永龍繁、小林廉毅、富野康日己、麦島秀雄、里見 進、堀内行雄、岩下光利、山田芳嗣の12名で構成されている。本年度第1回委員会は8月15日(水)に開催された。

□日本医学雑誌編集者会議

「医学雑誌のオープンアクセス」をシンポジウムテーマとした第5回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第5回シンポジウムを

北村 聖日本医学雑誌編集者組織委員会委員長の総合司会の下、11月21日(水)13:00~16:00、日本医師会館小講堂にて開催する。参加希望者は本会HPにて受付中。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「『医学雑誌編集のガイドライン(案)』の作成」、「オープンアクセスとパブリックアクセス」、「論文の電子化(PubMed Centralに準じたXMLファイルの作成)、掲載論文へのDOIの付与、ジャパンリンクセンターの開始」、「CrossCheckシステムの導入(事例報告1、事例報告2)」、「日本発の臨床論文の動向」の講演が行われる予定。

□日本医学会分科会利益相反会議

「医学研究における産学連携の透明化とCOIマネージメント」をシンポジウムテーマとした第3回日本医学会分科会利益相反会議を曾根三郎日本医学会利益相反委員会委員長の総合司会の下、11月22日(木)13:00~16:20、日本医師会館小講堂にて開催する。参加希望者は本会HPにて受付中。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「産学連携推進による医学研究とCOIマネージメントの意義」、「日本医学会分科会におけるCOIマネージメントの現状と問題点」、「臨床医学研究とCOIマネージメント」、「製薬企業における『企業活動と医療機関等との関係の透明性ガイドライン』の実施状況について」、「医学研究にかかる産学連携の透明性：社会からの視点の在り方」、「COIマネージメントにおける具体的な問題点と改善に向けた対応策について」の講演が行われる予定。

□医学用語管理委員会

6月28日(木)に第3回委員会を開催した。今後の予定としては平成24年度日本医学会分科会用語委員会を12月4日(火)15:00~17:00に日本医師会小講堂で開催する。

□JapanCDC(仮称)創設に関する委員会

10月12日(金)に委員会を開催予定。